

三井デザインテック  未来のデザインシリーズ

# 日本のホテルデザインを変える 三井デザインテックの仕事

住宅インテリアからスタートし、オフィス・ホテル分野のデザインでも数多くの実績を持つ三井デザインテック。異なる領域のデザインを掛け合わせ新たな「コト体験」を生み出す「クロスオーバーデザイン」を強みに、ホテルデザインの分野で快進撃を続けている。2019年3月に開業した「ホテルインターゲート金沢」を展開するグランビスタ ホテル&リゾート社長の須田貞則さんと、ホテルデザインを担当した三井デザインテックの三樹旦子さんが、ホテルオープンに込めた思いについて語り合った。

文/國貞文隆 人物撮影/山岸政仁 撮影場所/「ホテルインターゲート金沢」のラウンジ 内装設計/三井デザインテック



三井デザインテック  
デザインマネジメント部  
ホスピタリティデザイン第一チームデザイナー  
三樹旦子さん

グランビスタホテル&リゾート社長  
須田貞則さん

**須田** 「グランビスタ ホテル&リゾート」は、2018年に新しいホテルブランド「インターゲートホテルズ」の展開をスタートさせ、京都・東京・広島に続いて2019年3月、金沢に「ホテルインターゲート金沢」を開業しました。「インターゲート」という言葉には、人と人、人と地域、地域と文化をつなぐ扉=ゲートの役割をホテルが担うとの思いが込められています。魅力的な文化・人が集まるこの金沢の地で、地域の皆様と協力しながら、国内外のお客様をお迎えしていきたいと思っています。

ホテルのデザイン・設計・施工を三井デザインテックに依頼した理由は2つあります。一つは、当社のビジョン

や開発コンセプトを深く理解した提案内容であったこと。もう一つは、デザインの随所に、金沢特有のセンス、意外性のあるアレンジが感じられた点です。

例えば、スタンダードダブルの客室(写真4)には、石垣をイメージしたヘッドボードと壁紙、前田利家公をお祀りする尾山神社のステンドグラスをイメージしたソファが置かれています。ほかにも、ホテル各所に様々な意匠が凝らされているのです。

**三樹** 「ホテルインターゲート金沢」のデザインを担当すると決まった時、金沢が持つ魅力を、宿泊を通してゲストの方々を感じていただけるホテルにしたいと考えました。デザインのテーマ

は「素」と「くずし」です。「素」は素材を生かすこと、「くずし」は妙技を意味します。素材に遊び心を加えたり現代的なアレンジを施したりする。これをデザインの基本に置きました。

東京出身の私が金沢の大学で建築を学ぶためにこの地を訪れた時、尾山神社の神門に衝撃を受けたんです。神社なのにカラフルなステンドグラスが神門に装飾されていて、夜になるとシンポリックにきらきらと輝いている。神社とステンドグラスは常識で考えると異質な組み合わせに感じられますが、そこに面白さを感じました。ミスマッチなのに、品格があり華やかで、何度も通ううちに多彩な表情が見えてくる。

広告

そんな面白さをホテルデザインの起点とし、素材に遊び心や現代的アレンジを加えました。

フロントの壁面(写真1)は、金沢城の石垣をイメージしました。金沢城の石垣は面によって意匠が違って、丸い石や異形の石など様々な石が使われ、抽象絵画で知られるピエト・モンドリアンの作画パターンのように美しいです。その石組みの形と、金沢の伝統色である「加賀五彩」を現代的に融合させたいと思い、フロントの壁面に採用しました。

大浴場(写真2)の壁画デザインも、石川県観光PRマスコットキャラクター「ひやくまんさん」をデザインした田中サトミさんと作り上げたもので、壁面いっぱい金沢の名所を描きました。観光を終えた夜、疲れを癒やす大浴場で一日を振り返りながら、絵の中の名所をもう一度楽しんでいただく。そんな遊び心を含めました。

**須田** 「インターゲートホテルズ」のコンセプトは、「地域に暮らすように泊まる」ホテルで、求めているのは設備の使いやすさ、居心地の良さ、安らぎです。適度な生活感こそが、真のくつろぎをもたらすと考えるからです。例えば、チェックインを終えられてお疲れのお客様は、ご自宅にいる時と同じように「コーヒーでも飲みたい」と思われるかもしれない。そうしたタイミングをしっ

かりと捉え、淹れ立てのコーヒーをラウンジで提供させていただく。こんなふうに、お客様がご自宅で過ごされるスタイルを取り込み、提供する。これが、ホテルの特徴の1つになっています。

**三樹** 三井デザインテックはもともと住宅のインテリアに強みを持っていますが、最近では住宅インテリアが持つ心地良さをホテルやオフィスのデザインに取り入れることが求められるようになってきました。その意味では、当社が住宅インテリアで培ったデザインをホテルやオフィスで生かすなど、異なる領域のデザインを掛け合わせて新たな「コト体験」を生み出す「クロスオーバーデザイン」が生かされる場面が多くなっています。

**須田** 私が一番気に入っているのが、ロビーラウンジの中央にある「茶筌」を模したコーヒーカウンター(写真3)です。意外性にあふれた形ですが、実際には居心地の良い、安らぎある空間になっていて、金沢らしさを感じました。「どこかホッとする」といったコメントをお客様からも頂戴しています。心からの歓迎の意を表現する、このホテルのシンボルになっています。

**三樹** ロビーラウンジは内と外が繋がっている縁側のイメージで、中央に茶筌型のロビーを配し、コーヒーを片手にくつろいでいただける場になっています。金沢はコーヒー消費量が全国

トップクラスに入るほどコーヒー好きが多い土地柄で、カフェも多い。これも加賀百万石の茶の湯の文化が影響しているのではと思うのですが、茶筌という加賀前田家の茶の湯の文化とコーヒーの最新マシンを組み合わせれば面白いのではと思い、設計しました。これはある意味、伝統的なお茶の文化と現代のコーヒー文化を掛け合わせたクロスオーバーデザインと言えます。

**須田** ホテルオープンに当たり、三樹さんをお呼びしてキャスト(ホテルスタッフ)にデザインの背景についてお話しいただきました。ホテルの開発コンセプトがどうデザインされ、どんな意匠がそこにあるのかを、関係者みんなで共有することが大切だと思ったからです。空間や内装デザインは、ホテルのオペレーション(運営)と密接に係わっています。デザイナーから直接、思いや意匠を聞くことで、キャストのホスピタリティマインドも向上していく。それが彼らのプライドにもつながっていくのです。

開業して数カ月、お客様からも「居心地が良い」と高評価です。京都や広島など他の「インターゲートホテルズ」も泊まってみたいというお声を頂き、私たちの取り組みがお客様にしっかりと伝わっていると感じています。このホテルが地域の皆様と共にさらに成長していくのが本当に楽しみです。



1 フロントカウンター。バックは金沢城石垣をイメージした加賀五彩のタイル張り。2 大浴場(女湯)。壁面には金沢の名所が描かれている。3 茶筌を模したコーヒーカウンター。4 スタンダードダブルの客室。闇夜に浮かぶ尾山神社のステンドグラスをイメージ。